

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-19403

(43) 公開日 平成9年(1997)1月21日

(51) Int. Cl. ⁶	識別記号	F I		
A61B 1/00	334	A61B 1/00	334	D
	300		300	A
10/00	103	10/00	103	M
17/28	310	17/28	310	

審査請求 未請求 請求項の数8 O L (全8頁)

(21) 出願番号 特願平7-172152

(22) 出願日 平成7年(1995)7月7日

(71) 出願人 000003078

株式会社東芝

神奈川県川崎市幸区堀川町72番地

(72) 発明者 南部 恭二郎

栃木県大田原市下石上1385番の1 株式会
社東芝那須工場内

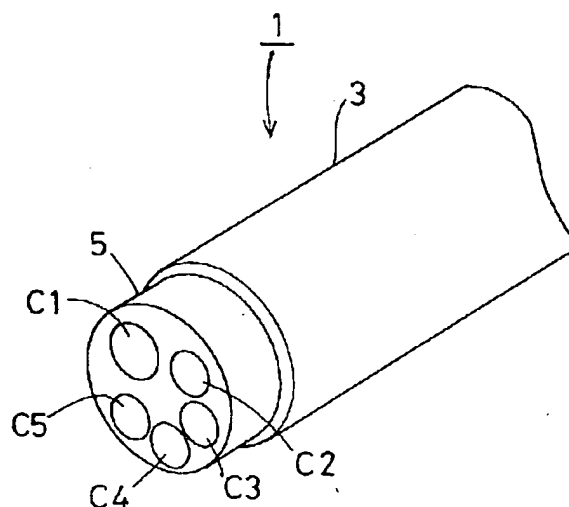
(74) 代理人 弁理士 三好 秀和 (外3名)

(54) 【発明の名称】 内視鏡用デバイスおよび内視鏡装置

(57) 【要約】

【課題】 本発明は、複数の手術用の部材を使用することができ、かつその動作の自由度を増やすことが可能な手術用デバイスを提供することを目的とする。

【解決手段】 円筒状の外筒3と、この外筒3に挿入され、この外筒3の長手方向と同方向に設けられた貫通孔を、その中心軸が前記外筒の中心軸と一致する位置を除いて、備える円柱状の内視鏡用デバイス本体5とを備えて構成される。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 円筒状の外筒と、

この外筒に挿入され、その中心軸が前記外筒の中心軸と一致する位置を除いて前記外筒の長手方向と同方向に設けられた貫通孔を備える円柱状の内視鏡用デバイス本体と、

を有することを特徴とする内視鏡用デバイス。

【請求項 2】 前記貫通孔の少なくとも一つには、診断装置が挿入されることを特徴とする請求項 1 記載の内視鏡用デバイス。

【請求項 3】 前記貫通孔の少なくとも一つには、手術用の部材が挿入されることを特徴とする請求項 1 記載の内視鏡用デバイス。

【請求項 4】 被検部を撮影する内視鏡と、

被検部の位置を認識する認識手段と、

この内視鏡の先端の位置と受光する向きを検出する検出手段と、

内視鏡の被検部側先端が移動された時、前記検出手段により検出された内視鏡の先端の位置および受光する向きと、認識手段により認識された被検部の位置とを基に、被検部を中心とした所定の領域の画像情報を前記内視鏡により得られた画像情報から抽出する画像切り出し手段と、

を有することを特徴とする内視鏡装置。

【請求項 5】 前記認識手段は、前記内視鏡により得られた画像情報を基に三次元表示された画像情報上で操作者により指定された位置を基に被検部の位置を認識することを特徴とする請求項 4 記載の内視鏡。

【請求項 6】 被検部を撮影して画像情報を得る内視鏡と、

この内視鏡の移動前に得られた画像情報をこの内視鏡移動後に得られた画像情報に一致させ、この一致を行う際の画像情報の移動量を基に被検部を中心とした所定の領域の画像情報を前記内視鏡移動後の画像情報から抽出する画像切り出し手段と、

を有することを特徴とする内視鏡装置。

【請求項 7】 被検部を撮影する内視鏡と、

被検部の位置を認識する認識手段と、

この内視鏡の先端の位置と受光する向きを検出する検出手段と、

内視鏡の被検部側先端が移動された時、前記検出手段により検出された内視鏡の先端の位置および受光する向きと、認識手段により認識された被検部の位置とを基に、内視鏡の受光する方向を被検部側に移動する受光方向移動手段と、

を有することを特徴とする内視鏡装置。

【請求項 8】 前記認識手段は前記内視鏡により得られた画像情報を基に三次元表示された画像上で操作者により指定された位置を基に被検部の位置を認識することを特徴とする請求項 7 記載の内視鏡装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、内視鏡を用いた手術に使用される鉗子、鉋、キューサ、レーザ等が挿入される内視鏡用デバイスおよび、所望の領域の画像情報を抽出することが可能な内視鏡装置に関するものである。

【0002】

【従来の技術】近年、内視鏡により被検体を観察しながら、腫瘍等を削除する手術が多く行われている。このような内視鏡を用いた手術は、内視鏡の鉗子孔に鉗子、鉋、キューサ、レーザ等の手術用の部材を挿入することによって行われている。また、内視鏡を用いた手術では、被検体をより詳しく観察するために複数の方向から観察したいという要望がある。特に、受光系が1つだけの単眼内視鏡で立体的な構造を知るには複数の方向から観察する操作が必須であり、また受光系を左右に二つずつ持つことにより立体的な画像を得ることが可能な立体内視鏡においても、複数の方向から観察した方がより詳しい立体的な構造が判ることから、前記の要望がさらに強いものとなっている。

【0003】例えば図14に示すように、腹壁内を腹部手術用の立体内視鏡、いわゆるラパロスコープを用いて撮影する場合、ラパロスコープ挿入部分の入口が狭く、入口近辺を支点にして回転移動するしかないので、図14(a)に示すように前記入口側からは被検部Pを画面上に表示することができるが、図(b)に示すように表示領域iを越える方向からは被検部Pを撮影すると、被検部Pを抽出することができず、そのままでは被検部Pを画面上に表示させることができない。この場合、被検部Pを表示するには表示領域を広くして表示させている。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、従来、内視鏡を用いた手術では、内視鏡の鉗子孔に鉗子、鉋、キューサ、レーザ等を挿入することによって行われているが、内視鏡の鉗子孔は通常一つであり、さらに、径が細いため、挿入可能な鉗子、鉋、キューサ、レーザ等の手術用の部材の数が限られるばかりか、動作の自由度が低かった。また、内視鏡を用いた手術では、被検部をより詳しく観察するために複数の方向から観察したいという要望があるが、内視鏡を挿入する部分の入口が狭く平行移動ができない場合、複数の方向から被検部を撮影すると被検部を画面の中心にして表示させることができない。

【0005】本発明は、上記課題に鑑みてなされたもので、複数の手術用の部材を使用することができ、かつ、その動作の自由度を増やすことが可能な手術用デバイスを提供することを第1の目的とする。また、一つの被検部を複数の方向から撮影した場合であっても、被検部を抽出して画面の中心に表示させることが可能な内視鏡装

置を提供することを第 2 の目的とする。

【 0 0 0 6 】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するため本願第 1 の発明は、円筒状の外筒と、この外筒に挿入され、その中心軸が前記外筒の中心軸と一致する位置を除いて前記外筒の長手方向と同方向に設けられた貫通孔を備える円柱状の内視鏡用デバイス本体とを有することを要旨とする。本願第 1 の発明の内視鏡用デバイスにあっては、貫通孔を備える円柱状の内視鏡用デバイス本体を円筒状の外筒に挿入しているので、複数の手術用の部材を使用することができ、かつ、その動作の自由度を増やすことができる。

【 0 0 0 7 】また本願第 2 の発明は、被検部を撮影する内視鏡と、被検部の位置を認識する認識手段と、この内視鏡の先端の位置と受光する向きを検出する検出手段と、内視鏡の被検部側先端が移動された時、前記検出手段により検出された内視鏡の先端の位置および受光する向きと、認識手段により認識された被検部の位置とを基に、被検部を中心とした所定の領域の画像情報を前記内視鏡により得られた画像情報から抽出する画像切り出し手段とを有することを要旨とする。

【 0 0 0 8 】本願第 2 の発明の内視鏡装置にあっては、内視鏡の被検部側先端が移動された時、検出手段により検出された内視鏡の先端の位置および受光する向きと、認識手段により認識された被検部の位置とを基に、被検部を中心とした所定の領域の画像情報を前記内視鏡により得られた画像情報から抽出するようにしているので、一つの被検部を複数の方向から撮影した場合であっても、被検部を抽出して画面の中心に表示させることができる。

【 0 0 0 9 】また、本願第 3 の発明は、被検部を撮影する内視鏡と、被検部の位置を認識する認識手段と、この内視鏡の先端の位置と受光する向きを検出する検出手段と、内視鏡の被検部側先端が移動された時、前記検出手段により検出された内視鏡の先端の位置および受光する向きと、認識手段により認識された被検部の位置とを基に、内視鏡の受光する方向を被検部側に移動する受光方向移動手段とを有することを要旨とする。

【 0 0 1 0 】本願第 3 の発明の内視鏡装置にあっては、内視鏡の被検部側先端が移動された時、検出手段により検出された内視鏡の先端の位置および受光する向きと、認識手段により認識された被検部の位置とを基に、内視鏡の受光する方向を被検部側に移動するので、一つの被検部を複数の方向から撮影した場合であっても、被検部を抽出して画面の中心に表示させることができる。

【 0 0 1 1 】

【発明の実施の形態】以下、本発明に係る実施の形態を図面を参照して説明する。図 1 は本願第 1 の発明に係る内視鏡用デバイスの第 1 の実施形態を示した図である。

図 1 に示すように、内視鏡用デバイス 1 は、外筒 3 と、

内視鏡用デバイス本体 5 とから構成されている。外筒 3 は、図 2 (a) に示すように断面が円環状の円筒であり、内部に内視鏡用デバイス本体 5 が挿入される。内視鏡用デバイス本体 5 は、図 1 に示すように、外筒 3 に挿入され、外筒 3 の長手方向と同方向に設けられた 5 つ貫通孔 C1 ~ C5 を備える円柱状の部材である。この内視鏡用デバイス本体 5 の外形は、外筒 3 の内径より若干小さいものとする。また、図 2 (b) に示すように、貫通孔 C1 ~ C5 の中心軸は、内視鏡用デバイス本体 5 の中心軸と一致しないよう配置されている。

【 0 0 1 2 】この内視鏡用デバイス 1 の貫通孔 C1 には、例えば図 3 (a) に示すように、右側用の受光系 7 R と左側用の受光系 7 L とを備える立体内視鏡 7 が挿入され、貫通孔 C2 には、例えば図 3 (a) に示すように、例えば内部に貫通孔 9 a を備える鉗子 9 が挿入される。この貫通孔 9 a には、図 3 (c) に示すように、鉗等の手術用のデバイス 1 1 が挿入される。

【 0 0 1 3 】内視鏡用デバイス 1 の貫通孔 C1 に立体内視鏡 7、貫通孔 C2 に鉗子 9 を挿入したときの長手方向の断面を図 4 に示す。図 4 に示すように内視鏡用デバイス 1 の貫通孔 C1 に挿入された立体内視鏡 7 は、矢印 F1 に示す貫通孔 C1 内での移動の自由度と、矢印 F2 に示す貫通孔 C1 内での回転の自由度を持つことができる。さらに、内視鏡用デバイス 1 の貫通孔 C1 に挿入された立体内視鏡 7 は、内視鏡用デバイス本体 5 を矢印 f2 に示すように回転させることにより、外筒 3 を動かすことなく、その位置を移動させることができる。

【 0 0 1 4 】また、内視鏡用デバイス 1 の貫通孔 C2 ~ C5 の内の一つ、例えば C2 に、先端を屈曲することが可能な鉗子 9 を挿入し、さらに、鉗子 9 の貫通孔 9 a にデバイス 1 1 を挿入した場合のデバイス 1 1 は、矢印 f1 に示す貫通孔 C2 内での鉗子 9 の移動の自由度と、矢印 f3 に示す貫通孔 C1 内での鉗子 9 の回転の自由度と、矢印 f4 に示す貫通孔 9 a 内でのデバイス 1 1 の移動の自由度と、矢印 f5 に示す鉗子 9 の屈曲の自由度と、矢印 f6 に示す鉗子 9 の屈曲した状態での貫通孔 9 a 内での回転の自由度と、矢印 f7 に示す鉗子 9 の屈曲した状態での移動の自由度を持つことができる。さらに、内視鏡用デバイス 1 の貫通孔 C2 に挿入された鉗子 9 は、内視鏡用デバイス本体 5 を矢印 f2 に示すように回転させることにより、外筒 3 を動かすことなく、その位置を移動させることができる。

【 0 0 1 5 】このように、本願第 1 の発明の第 1 の実施形態の内視鏡用デバイス 1 は、外筒 3 に 5 つの貫通孔 C1 ~ C5 を備える内視鏡用デバイス本体 5 を挿入するようにしているので、貫通孔 C1 ~ C5 に挿入される立体内視鏡 7、鉗子 9 の動作の自由度を増やすことができる。また、鉗子 9 の鉗子孔 9 a に挿入されるデバイス 1 1 は、さらに自由度が増すことになる。

【 0 0 1 6 】図 5 は本願第 1 の発明に係る内視鏡用デバ

イスの第2の実施形態を示した図である。尚、図5中、図1～図3で示したものと同一のものは同一の記号を付して詳細な説明を省略した。図5に示すように、内視鏡用デバイス20は、外筒3に挿入される内視鏡用デバイス本体5を回転させるモータ21と、内視鏡用デバイス本体5の貫通孔に挿入される立体内視鏡7を回転させるモータ23と、モータ21とモータ23の回転方向と回転量を制御する回転制御部25と、回転操作ボタン（図示せず）を備え、この回転操作ボタンの操作に応じた回転命令を回転制御部25に出力する操作部27を備える。

【0017】尚、内視鏡用デバイス本体5は、その外周に設けられギア21aと、モータ21の回転軸に設けられ、ギア21aに噛合されるギア21bを介してモータ21により回転される。また、立体内視鏡7も同様にギア23aと、ギア23bを介してモータ23により回転される。

【0018】内視鏡用デバイス20では、操作者により操作部27を用いて図6(a)に示す角度 r だけ内視鏡デバイス本体5を回転させる命令が出された場合、回転制御部25は、内視鏡デバイス本体5を角度 r だけ回転させるようにモータ21を制御するとともに、立体内視鏡7を図6(b)に示す角度 $-r$ だけ回転させるようにモータ23を制御する。

【0019】これにより、内視鏡用デバイス本体5を回転させても、外筒3に対しては立体内視鏡7は回転しないので、立体内視鏡7の右側用受光系7Rと左側用受光系7Lとが逆転するようなことがない。このため、内視鏡用デバイス本体5を回転させたとき、立体内視鏡7により得られる画像の回転を防止することができる。

【0020】このように、本願第1の発明の第2実施形態の内視鏡用デバイス20では、内視鏡用デバイス本体5の回転に応じて、立体内視鏡7を逆に回転させているので、内視鏡用デバイス本体5を回転させたとき、立体内視鏡7により得られる画像の回転を防止することができる。

【0021】図7は本願第2の発明に係る内視鏡装置の実施形態を示した図である。図7に示すように、内視鏡装置30は、立体内視鏡31と、検出手段33と、撮像部35と、切り出し制御部37と、表示部39とを有する。立体内視鏡31は、右側用受光系31Rと、左側用受光系31Lと、右側用受光系31Rと左側用受光系31Lのそれぞれに設けられた広角のイメージング範囲を持つレンズ系とを備える。

【0022】検出手段33は、立体内視鏡31の先端の位置と受光する向きを所定の基準位置を基に検出する。例えば超音波を3つの位置から送信し、この超音波を立体内視鏡31の先端に設けられた3つの超音波受信部で受信してこれらの受信時間の差から立体内視鏡31の先端の位置と受光する向きを求める。尚、検出手段33と

しては、これに限らず、例えば、立体内視鏡31を屈曲可能なアームで支持し、このアームの屈曲量と回転量等から立体内視鏡31の先端の位置と受光する向きを検出するようにしても良い。撮像部35は、立体内視鏡31により得られた光学像を電気信号に変換して画像情報を得る。尚、撮像部35は、高解像度であることが望ましい。

【0023】切り出し制御部37は、モードスイッチ37aを備え、モードスイッチ37aを押しつつ、立体内視鏡31を移動させた時、モードスイッチを押した最初の時点で、表示画面の中央にある被検部が立体内視鏡31移動後も画面の中央近くに来るように画像情報の抽出を行う。

【0024】表示部39は、モニタ（図示せず）を備え、撮像部35により得られた画像情報をモニタ上に表示する。また、表示部39は、切り出し制御部37により抽出された画像情報をモニタ上に表示する。

【0025】次に、切り出し制御部37の画像情報の抽出方法を図8と図9を用いて説明する。立体内視鏡31を図8に示すように角度 α だけ回転させた場合、切り出し制御部37は、まず、角度 α と、立体内視鏡31の回転の支点からの長さを、検出手段33により検出された立体内視鏡31の先端の位置と受光する向きを基に求める。尚、立体内視鏡31の支点からの長さは、支点が腹壁内入口近辺になることから、表示画面上で腹壁内入口を確認し、このときの立体内視鏡31の先端の位置と、腹壁内に挿入した後の立体内視鏡31の先端の位置の差から求めることができる。

【0026】角度 α と立体内視鏡31の支点からの長さが既知となると、抽出する画像情報の中心は、立体内視鏡31の中心軸を被検体P側に延ばした線B上のいずれかの位置となることが分かる。このため、抽出する画像情報の中心が線B上のいずれの位置であるか、即ち、奥行き方向の位置を指定すれば、抽出する画像情報の中心を求めることができる。この奥行き方向の位置の指定は、図9に示すように右側用受光系31Rにより得られた画像情報を立体的に表示した左側用画面と左側用受光系31Lにより得られた画像情報を立体的に表示した右側用画面にそれぞれ表示されたカーソルAとともに被検部Pの中心に移動させることにより行う。

【0027】これにより、切り出し制御部37は、回転させた角度 α と、立体内視鏡31の支点からの長さ、立体内視鏡31から被検部Pまでの距離が分かるので、抽出する画像情報の中心の位置を求めることができる。そして切り出し制御部37は、この求められた抽出する画像情報の中心位置を中心にして所定の領域の画像情報を抽出して表示部39に供給する。これにより、表示部39のモニタ上には、被検部Pを中心にした画像が表示される。

【0028】例えば、図10(a)に示すように立体内

視鏡 31 を実線で示した位置から点線で示す位置に回転移動させた場合、被検部 P を中心にした画像情報が抽出され、図 10 (b), (c) にそれぞれ示すように被検部 P が画面中央に表示される。

【0029】次に、切り出し制御部 37 の画像情報の抽出方法の他の例を図 11 を用いて説明する。まず、被検部 P を撮影した画像情報、または必要ならばそれに輪郭強調等の画像処理を加えた画像情報上で特徴的な部分あるいは全体をテンプレート画像として制御部 37 に記憶させるとともに、被検部 P からのこのテンプレート画像の位置を記憶させておく。この状態でモードスイッチ 37a が押され、立体内視鏡 31 が移動された場合、撮像部 35 により変換された画像情報または、前記画像処理を加えた場合は同様に画像処理を加えた画像情報に前記記憶させたテンプレート画像を一致、すなわちテンプレートマッチングさせる。そして、このテンプレートマッチングの際のテンプレート画像の移動量を基に抽出する画像情報の中心位置を求める。そしてこの求められた中心位置を被検部 P の中心とした所定の領域の画像情報を前記立体内視鏡 31 移動後の画像情報から抽出する。そして、切り出し制御部 37 は、抽出された画像情報を表示部 39 に供給する。これにより、表示部 39 のモニタ上には、被検部 P を中心にした画像が表示される。尚、立体内視鏡 31 移動中に前記のテンプレートマッチングを行う動作を所定の時間毎に行えば、立体内視鏡 31 移動中もそれに追従して被検部 P を中心とした所定の領域の画像情報を表示部 39 に表示させることができる。

【0030】この場合、切り出し制御部 37 による画像情報の抽出は、撮像部 35 により変換された画像情報を基に行うので、立体内視鏡 31 の先端の位置と受光する向きを検出する検出手段 33 は不要となる。

【0031】このように本願第 2 の発明の一実施形態の内視鏡装置 30 は、検出手段 33 により検出された立体内視鏡 31 の先端の位置と受光する向きと、表示画像上で指定された被検部 P の位置とを基に、被検部 P を中心とした所定の領域の画像情報を立体内視鏡 31 により得られた画像情報から抽出するようにしているので、一つの被検部 P を複数の方向から撮影した場合であっても、被検部 P を抽出して画面の中心に表示させることができる。

【0032】また、立体内視鏡 31 の移動後にテンプレートマッチングした際のテンプレート画像の移動量を基に被検部 P を中心とした所定の領域の画像情報を抽出するようにしているので、一つの被検部 P を複数の方向から撮影した場合であっても、被検部 P を抽出して画面の中心に表示させることができる。

【0033】次に、本願第 3 の発明に係る内視鏡装置の一実施形態を説明する。尚、本願第 3 の発明に係る内視鏡装置の構成は、図 7 に示す、本願第 2 の発明に係る内視鏡装置の一実施形態と同一であるので、図示および詳

細な説明を省略した。

【0034】前述の本願第 2 の発明に係る内視鏡装置の一実施形態では、撮像部 35 により変換された画像情報から、被検部 P を中心とした所定の領域の画像情報を抽出しているが、本願第 3 の発明に係る内視鏡装置では、立体内視鏡 31 の受光系自体を被検部 P に向けるようにする。

【0035】この場合、使用する立体内視鏡 31 は、その先端の向きを変えることが可能な軟性鏡を用い、先端の向き移動させる受光方向移動手段を設けるか、立体内視鏡 31 の先端に、屈曲率を変えることが可能な受光方向移動手段を設けるようにする。

【0036】例えば、立体内視鏡 31 を図 8 に示すように角度 α だけ回転させた場合、角度 α と立体内視鏡 31 の支点からの長さは、検出手段 33 の検出結果を基に求めることができる。このため、被検部 P の奥行き方向の位置 d を前述した方法と同様にして指定すれば、切り出し制御部 37 は、角度 α 、角度 γ ($\gamma = \beta - \alpha$) と、立体内視鏡 31 の支点から先端までの長さ L と、被検部 P と支点までの長さ L + d とから、立体内視鏡 31 を角度 α 回転させたとき、被検部 P に立体内視鏡 31 の先端を向かせるための角度 β を求めることができる。この角度 β に立体内視鏡 31 の先端が向くよう受光方向移動手段は動作する。

【0037】また、立体内視鏡 31 に硬性鏡を用いた場合のように立体内視鏡 31 の先端の向きを変えることができない場合は、図 13 に示すように、屈曲率を変えることが可能なプリズム 40 を立体内視鏡 31 の先端に設けるようにする。このプリズムは、光が通過しない面に蛇腹 40a を設けたもので、このプリズム 40 内に注入する水の量を変えることにより、プリズム 40 の角度 θ を変えるというものである。このように本願第 3 の発明の一実施形態では、立体内視鏡 31 により得られる画像情報自体が、被検部 P を中心とした画像情報となる。

【0038】尚、前述の本発明の実施の形態では、立体内視鏡 31 に適用した場合を例にして説明したが、本発明はこれに限定されることなく、内視鏡、超音波内視鏡等にも適用することができる。

【0039】

【発明の効果】以上説明したように本発明は、複数の手術用の部材を使用することができ、かつ、その動作の自由度を増やすことが可能となる。また、一つの被検部を複数の方向から撮影した場合であっても、被検部を抽出して画面の中心に表示させることが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本願第 1 の発明の内視鏡用デバイスの第 1 実施形態の構成を示す図である。

【図 2】図 1 に示した内視鏡用デバイスの外筒の断面図 (a) と、内視鏡用デバイス本体の断面図 (b) である。

【図 3】図 1 に示した貫通孔に挿入される立体内視鏡を示す図 (a) と、鉗子を示す図 (b) と、鉗子に挿入されるデバイスを示した図 (c) である。

【図 4】図 1 に示した内視鏡用デバイスに立体内視鏡と鉗子を挿入したときの内視鏡用デバイスの長手方向の断面図である。

【図 5】本願第 1 の発明の内視鏡用デバイスの第 2 実施形態の構成を示す図である。

【図 6】図 5 に示した内視鏡用デバイス本体を回転させたときの状態を示す図である。

【図 7】本願第 2 の発明に係る内視鏡装置の一実施形態の構成を示す図である。

【図 8】画像情報の抽出方法を説明するための図である。

【図 9】被検部の位置を指定する方法を説明するための図である。

【図 10】二つの方向から被検部を撮影する場合を示した図 (a) と、二つの方向から被検部を撮影した場合に得られる表示画像を示した図 (b, c) である。

【図 11】画像情報を抽出する他の方法を説明するための図である。

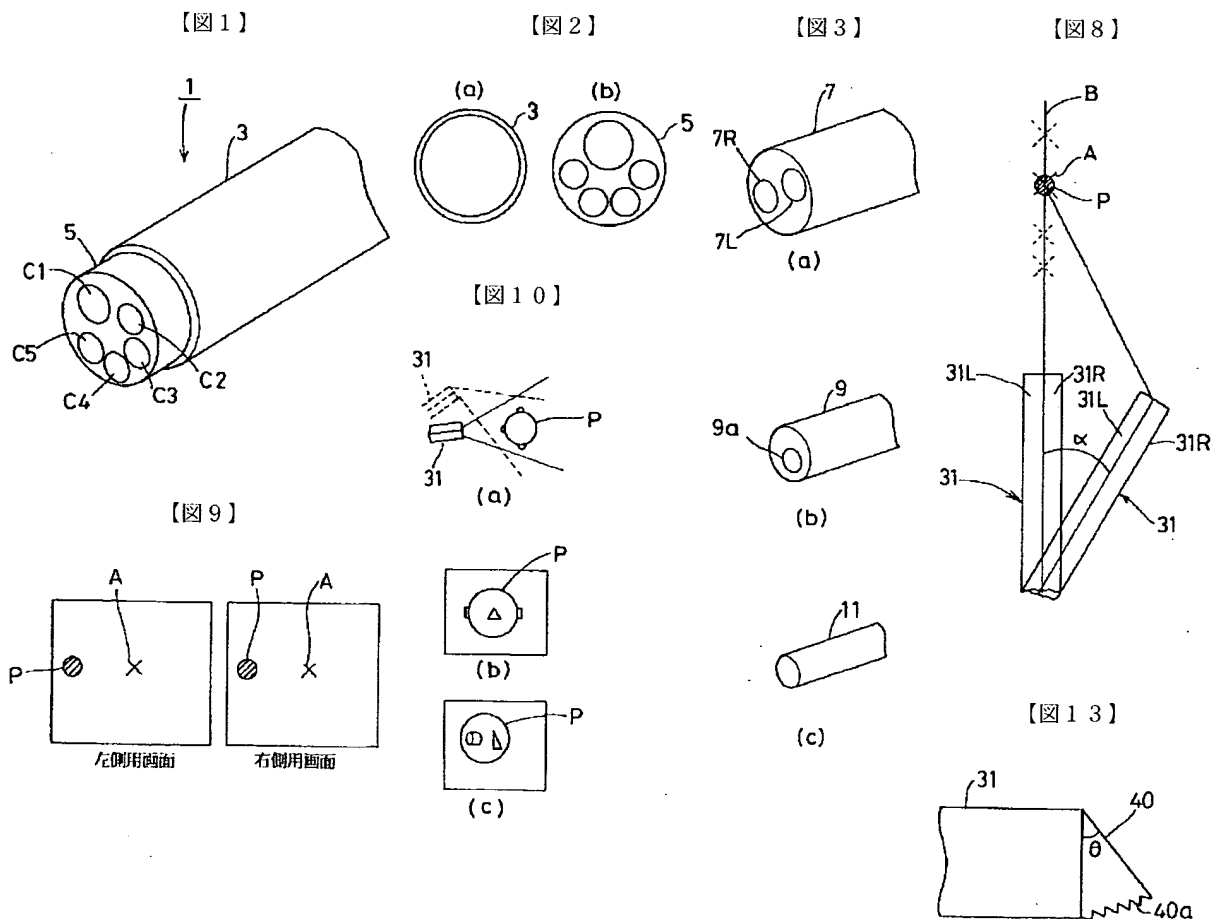
【図 12】内視鏡を回転させた場合に先端を被検部に向かせる時の角度の求め方を説明するための図である。

【図 13】光の屈曲率を変えることが可能なプリズムを示した図である。

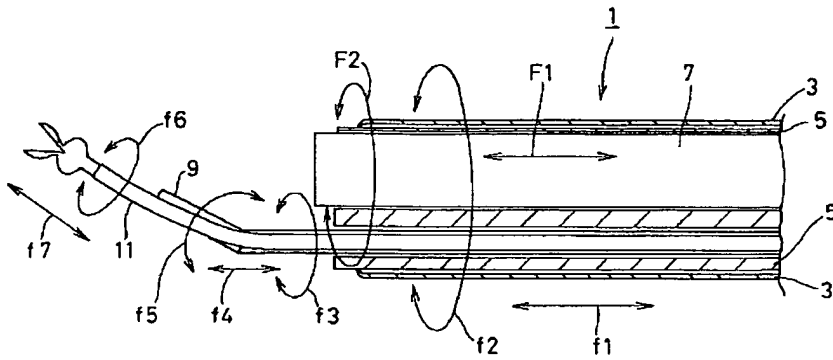
【図 14】ラパロスコープを用いて腹壁内の被検部を二つの方向から撮影する場合の従来例を示す図である。

【符号の説明】

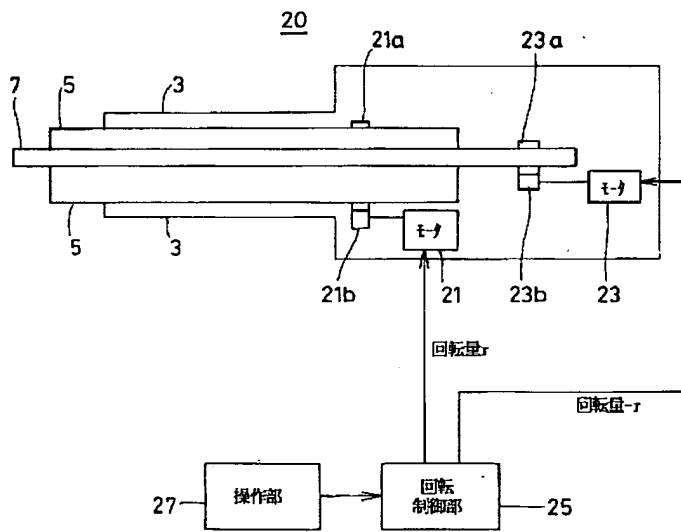
- 1 内視鏡用デバイス
- 3 外筒
- 5 内視鏡用デバイス本体
- 7 立体内視鏡
- 9 鉗子
- 11 デバイス
- 20 内視鏡用デバイス
- 21 a, 21 b, 23 a, 23 b ギア
- 21, 23 モータ
- 25 回転制御部
- 30 内視鏡装置
- 31 立体内視鏡
- 33 検出手段
- 35 撮像部
- 37 切り出し制御部
- 37 a モードスイッチ
- 39 表示部
- P 被検部



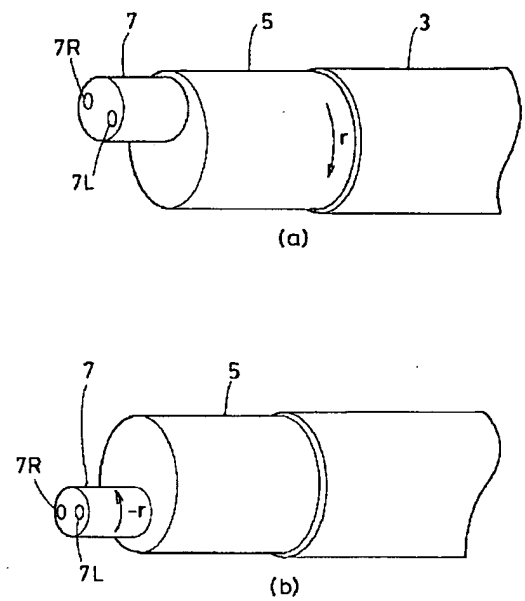
【図 4】



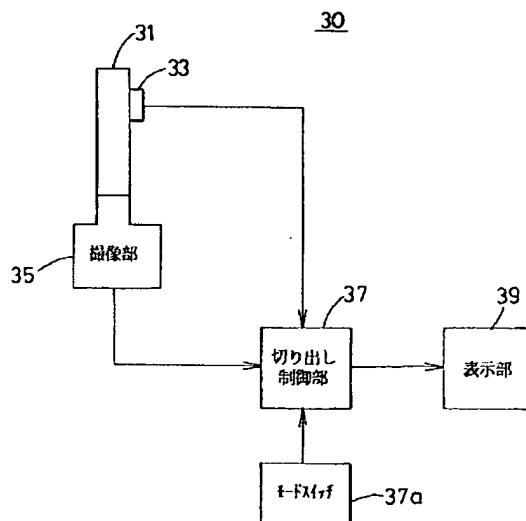
【図 5】



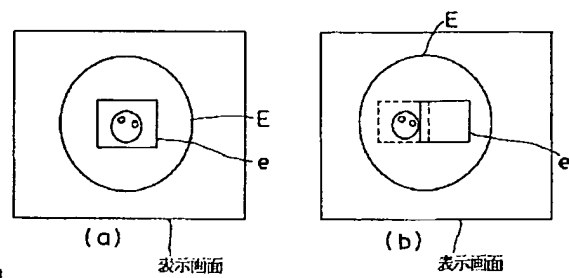
【図 6】



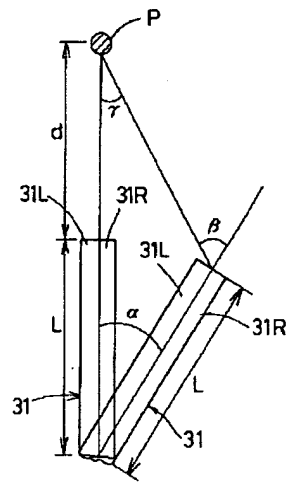
【図 7】



【図 11】



【図 1 2】



【図 1 4】

